

夏山の季節

～ 雷に注意しよう ～

梅雨が明けると夏山の季節になりますね。今までの梅雨のうっとうしさから解放され、さあ、山に行こうという気分になります。という気分には水を差すような話になりますが、特に夏山の注意が必要なことのひとつは雷ですね。

雷は夏以外でも発生しますが、特に夏は太陽が真上から照りつけて地表を暖めるために上昇気流が発生し、高高度で積乱雲となり雷が発生しやすくなります。

山で雷に遭うことはすごく怖くて、落雷被害に遭わないためにはどうするか。山に行く日は天気予報等を確認し、雷注意報（雷警報はないようです）が出ているかどうか、大気の状態が不安定などと予報されていないか。雷三日ということわざもありますので、そのへんも情報として入れておく必要がありますね。

また、山中でも開けた空が見えるところで、雲の状態を見てだんだん雲が黒くなり、高層で積乱雲に発達していないかを確認する（観天望気）、スマホで雨雲レーダーを確認する方法もあります。そして実際に山で雷が鳴りだしたら、雷は高いところ、尖ったところに落ちやすいと言われています。また、上からだけでなく横にも飛んでくるようです。

山に行く人は、こういう気象による山の事故を防ぐため普段から知識を身につけ、できるだけ安全な登山をする必要があると思います。

ガイド 藤田 典夫



滝谷ノ峰のヘリポートから見た雲

観光協会事務局より

～ 白丸ダム60周年～

白丸調整池ダム（通称：白丸ダム）は昭和37(1962)年に完成しました。多摩川上流部には4か所の発電所が建設されていますが、このダムは多摩川第三発電所(御嶽)で利用するための水を貯水するために造られました。このダムによる貯水池は白丸湖の名で親しまれています。

現在では白丸湖畔遊歩道も整備され、またカヌーやSUPなどのアクティビティも盛んにおこなわれており、奥多摩の観光の一大名所として人気のスポットとなっています。

この白丸ダムも60周年の節目を迎え、管理者である東京都交通局でも記念キャンペーンを実施しています。目玉になるのはダムカードのデザインを模した「60周年記念カード」です。



キラキラとしたラメが特徴です。週末になると配布場所である「エコっと白丸」は開館前から行列ができるほどです。ご興味ある方は開館日を公式ホームページでご確認の上、白丸ダム横の「エコっと白丸」までお越しください。

主要な通行止め

- ・海沢 ネジレノ滝～大滝（復旧未定）
- ・鷹ノ巣山 稲村岩尾根（復旧未定）

次号発行予定：2023年10月15日

発行 一般社団法人 奥多摩観光協会
住所 〒198-0212 奥多摩町氷川210
電話 0428-83-2152 FAX 0428-83-2789
編集 名人・達人観光ガイドの会

来さっせえ奥多摩のバックナンバー
をオンラインでご覧いただけます。



奥多摩

《第70号》

令和5(2023)年

7月15日発行

一般社団法人 奥多摩観光協会



境の獅子舞 2016.8.16

奥多摩の獅子舞

奥多摩では毎年11か所の地域で獅子舞が開催されています。

「獅子舞とは東アジアおよび東南アジアで見られる伝統芸能の一つで、祭囃子にあわせて獅子が舞い踊るものである。その発祥については諸説があり、真相は定かではない。」(ウィキペディア)

5月5日の八雲神社獅子舞を皮切りに、8月には8か所の地域で、9月第一日曜日には日原のいっせきさん一石山神社、第二日曜日に小河内神社での原・川野獅子舞でしめくりとなります。現在町内各地で行われている獅子舞は、朝鮮きがく伎楽を母体としているといわれ、古くは中国・朝鮮との深いつながりが感じられます。(奥多摩 山里歩き絵図)

行って来たあよ

5月9日(火)

No.4 蕎麦粒山 1473m

蕎麦粒山は一人で行くには山が深いのでツアーを予約した。それも3日前にキャンセルが出て行けることになり本当に嬉しかった。

班に分かれて登っていくと最初は結構急登が続く。途中の休憩で班のガイドさんから自家製の干し柿をいただき元気が戻る。

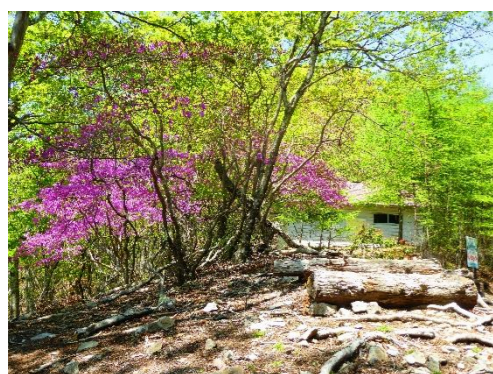


シロヤシオ

尾根に出るあたりからシロヤシオの真っ白な花と新緑の花道がずっと続いていて午前中の太陽の光を浴びてまるで天国にいるような美しさだった。小屋の周辺はミツバツツジもまだ残っていて白とピンクで、みんなでわあわあ感激しながらそこで昼食を食べる。今年は花が早いとのことでちょうどよいタイミングだった。



ミツバツツジ



一杯水避難小屋周辺

帰りはバス時間に間に合わないかもとみんなで急いで下りたのも楽しい思い出でバスで隣り合った方とまたこの「ツアーでお会いしましょうね」と笑いあって解散した。運動量もちょうどよく、五感が癒された1日だった。

友の会会員 ごとう わかこ

5月12日(金)

No.5 新緑のいこいの路

下見編

5月19日のいこいの路ハイキングは降雨の為残念ながら中止になりました。私達ガイド5名はお客様に緑したたる山を気持ちよく体感していただける様に、1週間前の12日に下見をして安全のチェックを行いました。

ダム湖を渡ってくる風はやや冷たく空はうす曇。今年は少雨でダム湖の貯水量は77%。麦山の浮橋も留浦の浮橋も共に通行止め。梅雨か長雨で80%台に回復すれば利用できるそうです。雨天では催行は厳しくなるし。どうしましょう。

いざ！山のふるさと村を目指して出発！12kmダァッ！居ました！居ました！お見送りでしょうか？お猿さん3~4頭が木々の合間からジーンと見えます。内の1頭が激しく木を揺すり、鳴き声をあげて私達を威嚇してきました。パチリ！と記念撮影。先を急ぎます。



ニホンザル

路の入口より、約1.7km地点で大規模工事中、迂回路有りです。一部仮設のステップがありますが、トラロープが張られた急坂を降りて堆積した土砂の河床を涉り、再び急坂を登ってコースの路に復帰します。ここは重点ポイントですね。第一に安全確認。お客様の安全渡渉を祈念します。

汗ばんだ身体を緑葉に包み、歩を進めて行きます。路沿いよく見かけるのはウツギ？クサギ？白い花です。足元ではテンナンショウの仲間が見かけられ、やがて秋には緑色から赤く熟した実をつけます。樹間から見えるのはエメラルドグリーン湖面です。

全行程12km中、工事の迂回路を除きアップダウンはありません。来年の夏休み頃まで工事は続きますが、山のふるさと村では、そば打ち体験、木工教室、陶芸教室でクラフト体験もできます。緑したたる奥多摩の路を愉しんで下さい。

※R5.6/5~ 麦山浮橋は通行可 ガイド 緒方 利幸

季節のオススメのイベント

No.14 9月20日(水)開催

天祖山 1723m

天祖山は江戸時代に地元の日原で白石山とよばれていました。その理由は山頂の東側に大きな石灰石の岩峰(白石山)がありその岩峰が信仰の対象とされていたからです。明治初年、天学教の霊山となり、天祖神社に参拝し修業する場になりました。しかし、日本が戦争に負け、国家神道が衰退したことで一時は10万人を超える信者がいた天学教もその数を減らし信仰の山としての意味を失っていきました。

奥多摩の1700mを超える山々が長大な石尾根や都県境尾根(長沢背稜)に位置しているのに対して、天祖山は唯一それらと尾根を異にする真正銘の奥多摩日原の独立峰です。

石灰石の採掘は江戸時代の成木石灰に始まり、岩倉街道、青梅街道そして青梅線へと繋がっていき、石灰は西多摩地区の基幹産業に発展しました。



石灰石採掘前の天祖山と立岩

「たましん地域文化財団デジタルアーカイブ」より

戦後、倉沢から始まった奥多摩町の石灰石採掘は昭和30(1955)年代から50年代に最盛期を迎え、青梅線は昼夜運行を続け貨物量が全国でも有数の鉄道路線となりました。日原の人口が約2000人に、小学校の児童数が150人ほどに達し、氷川小学校分校から独立校となったのもこの頃です。

しかし、名勝地であったトボウ岩や立岩等豊かな自然が失われたことは非常に残念なことです。

今でも東京の秘境といわれる日原ですが、現在の天祖山は遭難の多い山となっています。下山時は足元に注意を払いましょう。

ガイド 増澤 強

No.15 9月26日(火)開催

古里・鳩ノ巣歴史巡り

鳩ノ巣で生まれ育った私は、小学校の時から古里駅まで電車通学でした。放課後遊んでいて電車に乗り遅れると古里から家まで歩いて帰りました。距離にして2キロ弱、鳩ノ巣に着くころ次の電車が到着したものです。

今回の見どころは、西光山丹叟院の阿弥陀堂、小丹波熊野神社舞台、古里附のイヌグス(タブノキ)。これらは、いずれも奥多摩町自然文化100選に選ばれています。

給食センターのところで国道を横断し、旧青梅街道に入ります。釜の水や清見の滝を通り過ぎ、



古里附のイヌグス

寸庭橋を渡って多摩川を右に見て進みます。ここからはちょっとした山歩き、やがて道は登りとなります。約30分で東屋へ到着。そこからの眺めは、本仁田山を正面に鳩ノ巣の集落が一望できます。



東屋から眺める鳩ノ巣集落と本仁田山

ここまでくればゴールはもう少し、鳩ノ巣駅までは20分ほどです。お疲れ様でした。そうそう、このツアーはお弁当付きでした。

ガイド 原島 俊二